

三重県は大きい都会のような目立つ存在ではありませんが、自然と歴史が大切に守られながらそこにほどよく現代のものが溶け込み共存しています。都会のような便利さだけを追い求めるのではなく、昔から受け継がれてきたものと、今の時代に必要な新しさが調和している点が三重県らしさだと思います。

三重県は海や山に囲まれ、季節の変化を五感で感じられます。自然の中で過ごす時間は心を落ち着かせてくれる大切な存在です。このような環境が身近にあることで、自然を守ることの大切さを日常のなかで感じる事ができています。

また、伊勢神宮のような長い歴史を持つ場所が今も私たちの身近にあります。これは三重県が長い年月をかけて伝統を守り続けてきた証だと思います。伊勢神宮をはじめ、おかげ横丁や熊野古道などまだまだたくさんの場所に歴史が刻まれています。観光地としてだけではなく人々の信仰や暮らしと結びついてきた歴史が、今も息づいていることに価値があると感じます。

一方で、交通機関や商業施設などの整備により、私たちは不便を感じることなく生活しています。自然や歴史を守りながらも、必要な現代の便利さを取り入れてきたからこそ、今の三重県があります。

時代が進み、社会が大きく変化してもどれか一つに偏るのではなく、自然・歴史・現代が調和した三重県でありつづけてほしいです。そのバランスこそが、未来の三重県民へ伝えたい、最も大切なことです。